

## DX 企業講話 日置電機株式会社 様

### 【講師】

日置電機株式会社 知財法務部長 満木様

### 【講話内容】

- ・ 知的財産にかかわる法律や制度について
- ・ 産業と知的財産のかかわり（蒸気機関の歴史、デジタル化等）
- ・ 企業や社会における知的財産の位置づけについて
- ・ 電気とは何か、計測の基本 など

学生のワークシートから抜粋

### 【わかったこと等】

- ・ 特許は 20 年間維持できる。
- ・ 法律によって特許主と相手も守られている。
- ・ 特許があることでエンジニアのモチベーションを上げたり、産業の発展や課題の解決につながる。
- ・ 同じものを開発した人が何人いても最初に特許を取った人に権利がある。
- ・ 特許は国別の制度なので、出願をしていない国にまねされても手が出せなくなってしまう。
- ・ 特許はあくまでも産業の発展を目的としている。
- ・ 特許はまねしてはいけないが、技術をまねして活用はできる。
- ・ 模倣品は、どれだけ見た目を寄せていても元のブランドに届かない部分もあるから傷がついてしまうこともあり、悪評が広まる。
- ・ 課題とは理想と現実とのギャップ
- ・ 電気とは無数の電子が動くことによって生まれる。

### 【感想】

- ・ 特許の必要性や重要性を今回の講話でしっかりと理解することができてよかった。
- ・ 特許は今まで、同じものを作るならお金を取るだけのものだと考えていたが、他の企業への抑止などビジネスを占めるためのとても重要なものであり、モチベーションのためなど、多くの役割があった。
- ・ 今、世界で約何個の特許があるのかを調べてみようと思った。
- ・ 特許がないと模倣品がより多く作られているなど聞いていて思った。
- ・ いつか自分も特許を取れるような技術を開発できるようにしたい。そのためにもっと特許について知ることが必要。
- ・ 自分が製造業に就いた時自分のためにも企業のためにもしっかり考えたいと思う。

- ・色々な便利なものを発明することにも課題が出てきてしまうので、対策もしっかりすることが大切だと思った。
- ・人間は、1つ願いが叶ってしまうと、どんどん良い生活を望んで発明をし、色々な物を作るのでその時に、環境問題などのことをしっかり考えた上ですべきなんだなと思いました。
- ・色々な失敗を繰り返して、現在の機械や自動車などができていることが分かった。
- ・ただ失敗するのではなく、課題を見つけ、その課題を直すことが大切だと思った。
- ・電気についてや計測の基本などを改めて知ることができた。
- ・昔と今の蒸気機関は熱効率が大幅に違う。よってすごい進歩したんだなと思った。